

# 「鮭の聖地」への旅はここから!

## 標津サーモン科学館

鮭の聖地・根室海峡への旅は、その歴史を動かす原動力となった鮭の生態を学ぶところから始めましょう。標津サーモン科学館は、2~5月にはシロザケ稚魚が群泳する様子を、9~10月は標津川に回帰したシロザケ、カラフトマスの遡上の様子を、そして11月にはシロザケの産卵行動を展示公開しています。川で生まれ外洋へと旅立ち、再び生まれた川へと帰ってくる鮭の一生を、間近で観察し、体感することができるのです。

またサケ科魚類展示種類数日本一を誇る「水族館」として、鮭の仲間18種30種類以上を展示しているだけでなく、一万年の歴史の中で培われた、鮭にまつわる文化も紹介しています。

標津サーモン科学館で鮭にまつわる基礎知識を学んでから、鮭の聖地・根室海峡に息づく一万年の歴史文化を訪ねる旅をスタートしましょう。



サケ科魚類に加えて標津の海に生きる魚たちを展示する大水槽



標津川とつながる「魚道水槽」では回帰したシロザケ、カラフトマスの遡上を観察できます。

北海道標津郡標津町北1条西6丁目1-1 標津サーモンパーク内

TEL: 0153-82-1141

開館時間: 9:30~17:00

開館日: 5~10月無休、

2~11月水曜休館(祝日の場合は翌日)、

冬季(12月~1月)休館

入館料: 一般650円、小中学生200円



## 日本遺産と「鮭の聖地」の物語

「日本遺産」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、全国で104件が認定されています。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって活用、発信することで地域の活性化を図ることを目的としています。『「鮭の聖地」の物語～根室海峡一萬年の道程』は令和2年6月、日本遺産になりました。標津町・根室市・別海町・羅臼町にまたがる「鮭の聖地」は一萬年の軌跡を体感でき、味わえる日本遺産です。



### 【アクセス】

※いずれも車で標津町への場合

中標津空港	約30分
釧路空港	約2時間
女満別空港	約1時間50分
札幌	約6時間(高速道路利用)

中標津空港	⇒	札幌(新千歳)・東京
釧路空港	⇒	札幌(丘珠)・東京・大阪
女満別空港	⇒	札幌(新千歳)・東京・大阪

日本遺産「鮭の聖地」の物語に関する  
お問合せ先

### (歴史や史跡、文化に関すること)

標津町ボーポー川史跡自然公園

TEL: 0153-82-3674

### (観光に関すること)

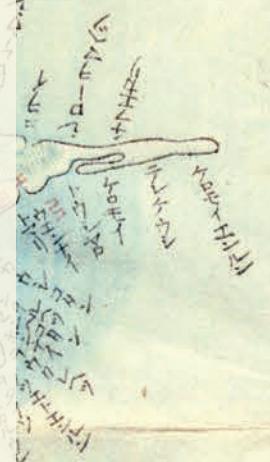
南知床標津町観光協会

TEL: 0153-85-7226

表紙は北海道の名付け親、松浦武四郎が1858(安政5)年に蝦夷地を探検した際の記録をまとめた「東西蝦夷山川地理取調図十四」から(別海町郷土資料館所蔵)。野付半島の特異な形も正確に描かれている。当時、この地はアイヌ語で東を意味する「メナシ」と呼ばれていた。



日本遺産  
JAPAN HERITAGE



# 「鮭の聖地」の物語

# 根室海峡、「鮭の聖地」の物語



北海道最東の海、根室海峡。ここでは遙か一万年もの間、絶えず人々の営みが続いてきました。その暮らしを支えてきたのは、大地と海を往来し、あらゆる生命の糧となった鮭でした。毎年秋に繰り返される鮭の遡上は、自然と人間、さらには人間同士の異文化間における衝突と共生を促し、数々の物語を紡いできました。人々の絶え間ない交流が生まれる場として、現在の北方領土を含むこの地の大地と海は、長く日本の東門の役割を果たしてきたのです。

江戸時代、最高級の品質で知られ、将軍家への献上品の一つであった根室海峡の鮭。その“ブランド力”ゆえに、南下するロシアとの衝突や、アイヌからの労働搾取などの軋轢を生むこともありました。しかし幕末、会津藩がこの地の警備と開拓を命じられたとき、一人の会津藩士によって水産業の灯がともされます。衝突から和平へ、強制から共生へ。

やがてこの地には人と鮭が行き来する海路、陸路、鉄路、道路という「道」が生まれ、今は大衆魚となった鮭が日本各地へ運ばれています。

一万年に及ぶ時の流れの中で鮭に笑い、鮭に泣いた根室海峡沿岸。ここは今も昔もこれからも、人と自然、あらゆるもののが鮭とながる「鮭の聖地」なのです。



かつて渡海拠点として機能した野付半島は、多くの物語の舞台となった



1



2



3

- 江戸時代のブランド、根室海峡の鮭と鱒の絵図「鱒形図拾壹品鮭形図四品」(別海町郷土資料館所蔵)
- アイヌの神聖な場所とされるチャシ。根室海峡沿岸では湊として利用された河口に残る
- 今も鮭はこの地域の重要な資源として暮らしを支え続けている

# 「標津遺跡群」で体感する一万年の時

## 標津町ポー川史跡自然公園

『「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～』の真髄といえる場所が、標津町ポー川史跡自然公園内を中心に広がる「標津遺跡群」です。標津遺跡群は主に伊茶仁川、ポー川流域を中心に分布する遺跡群の総称です。最大の特徴は、一萬年前の縄文時代早期から約800年前のアイヌ文化期に至る堅穴住居群や、約500年前のアイヌ文化のチャシ跡など、絶えず同じ場所で人々が暮らしていた痕跡を、地表面からくぼみとして観察できることです。その数は4400を超え、日本最大の遺跡群として知られています。堅穴の多くから、多量の「サケ科魚類の骨」が発掘され、縄文



残雪が残る時期には、より鮮明に堅穴跡のくぼみが確認できる

北海道標津郡標津町字伊茶仁2784番地

TEL: 0153-82-3674

開園時間: 9:00~17:00 (入園は16:30まで)

開園期間: 4月29日~11月23日

休園日: 開園期間中無休

入園料: 開拓の村・湿原・遺跡エリア

一般330円、大学生・高校生110円、中学生以下無料

※ビジターセンターは無料

## 「鮭の聖地」の体験

### サーモンフィッシング (忠類川サケ・マス有効利用調査)

忠類川では、国内初のサーモンフィッシング河川としての取組みが行われ、鮭の遡上時期には全国から愛好者が集まります（要申込）。

お問合せ先: 0153-82-2341

（忠類川サケ・マス有効利用調査実行委員会）



### しぶつあきあじまつり

毎年9月下旬の日曜日に開催される「鮭のおまつり」です。鮭のつかみどりや販売、イクラ丼の無料提供などが行われ、町内外からの多くの人でぎわいます。

お問合せ先: 0153-85-7226

（南知床標津町観光協会）



2

文化、続縄文文化、トビニタイ文化、アイヌ文化と変遷しながらも、人々は伊茶仁川やポー川を遡上する鮭を支えに暮らし続けた証となっています。

また、遺跡群周辺には80ヶ所に及ぶ湧き水の泉があり、真冬でも凍ることはありません。この泉の存在は人々の命を支え、そして鮭にとっては産卵床にもなっています。つまり、この地で暮らした人々にとって泉は水とともに、鮭という食料を手に入れることができます。

標津遺跡群を歩けば、一万年の時間を体感することができます。



3



4

- ビジターセンターで遺跡群や周辺の自然の知識を学んでからの散策がオススメ
- 遺跡からは各時代の土器が出土する。擦文土器（左2つ）とトビニタイ土器（右5つ）
- カリカリウス遺跡の復元住居。中をのぞくと珍しいヒカリゴケが観察できる
- 人だけでなく鮭の仲間の産卵床にも利用された湧き水
- 現在、遺跡では標津アイヌ協会による先祖供養の儀式が行われている

## 「鮭の聖地」を味わう

ここには長い時間をかけ、鮭一尾を使い切る食文化が根付きました。標津町内の宿や飲食店では様々な料理をお楽しみいただけます。また、町内の店では、いくらや、昔ながらの製法で仕込まれた山漬け（切り身）、その他各種加工品も購入できます。同じ製品でも、店ごとの味付けの工夫をお楽しみいただけます。



鮭の飯寿司（いづし）と  
鮭の珍味  
珍味は左から  
「めふん」（腎臓の塩辛）、  
「氷頭（ひづ）」（鼻柱の軟骨）、  
「チュウ」（胃袋の塩辛）

